

1. 略歴

- 1989年 3月 東京大学文学部国語学専修課程卒業
- 1991年 3月 東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専攻修士課程修了
- 1993年 3月 東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専攻博士課程中退
- 1993年 4月 明海大学外国語学部日本語学科専任講師（～1996年3月）
- 1996年 4月 茨城大学人文学部人文学科専任講師（～1997年9月）
- 1997年 10月 茨城大学人文学部人文学科助教授（～2003年3月）
- 2003年 4月 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部助教授
- 2007年 4月 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部准教授（～現在に至る）

2. 主な研究活動

a 専門分野

国語学

b 研究課題

日本語音韻史・日本漢字音史・日本韻学史を、主な専門領域とする。古代日本における外国語研究の二本の柱、すなわち漢字音韻学（中国語学）・悉曇学（梵語学）の学史的研究を、主要な研究領域とする。先人の残したさまざまな記録を元に、江戸時代以前の日本における、音声観察・音声分類の発達および変遷を解明することを目指す。これらの研究成果と連動させつつ、漢字音の日本化の問題、拗音分布の偏在性についての歴史的解釈、濁音の起源（連濁現象の起源）についての考察など、音韻史分野にも研究対象を拡張し、着実に成果を上げている。近年の課題としては、国語音・漢字音（呉音系字音、漢音系字音、唐音系字音）・梵語音を総合する、日本語音節バリエーションの歴史を明らかにすることを目指している。

c 主要業績

(1) 論文

沼本克明・肥爪周二、「奈良国立博物館蔵『悉曇藏』について」、『訓点語と訓点資料』、2013.3
肥爪周二、「Φ 音便について」、『訓点語と訓点資料』、132、16-35 頁、2014.3

(2) 書評

小倉肇、『日本語音韻史論考』、『國學院雑誌』、2012.7
高山倫明、『日本語音韻史の研究』、『国語と国文学』、91-2、2014.2

(3) 学会発表

国内、肥爪周二、「Φ 音便について」、訓点語学会研究発表会、2013.10.20
国内、肥爪周二、「拗音をめぐる二つの物語」、日本語学会秋季大会、2013.10.26

(4) 予稿・会議録

国内会議、肥爪周二、「拗音をめぐる二つの物語」、2013.10.26

(5) マスコミ

『古語大鑑』、用例の海の溺れる、『図書新聞』、2012.4.21

(6) 教科書

『国語史を学ぶ人のために』「第一章・資料論」、肥爪周二、執筆、世界思想社、2013

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、國學院大學、「日本語音韻史」、2012.4～2013.3
非常勤講師、國學院大學、「日本語音韻史」、2013.10～

(2) 学会

国内、訓点語学会、運営委員、2012.4～2014.3
国内、日本語学会、編集委員、2013.4～2013.5